



平成 20 年 11 月 6 日

各 位

会 社 名 株式会社 S R Aホールディングス
 代表者の役職名 代表取締役社長 鹿 島 亨
 (コード番号 3 8 1 7 東証第一部)
 問 合 せ 先 管理本部財務部長 築 瀬 友 孝
 T E L 0 3 - 5 9 7 9 - 2 6 6 6

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 20 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）および平成 21 年 3 月期通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の連結業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,000	1,750	1,750	950	68.64
今回修正予想 (B)	19,430	1,440	1,455	710	51.30
増減額 (B-A)	△570	△310	△295	△240	—
増減率 (%)	△2.9%	△17.7%	△16.9%	△25.3%	—
(ご参考)前第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	19,786	1,702	1,731	918	66.38

2. 平成 21 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	46,000	4,400	4,400	2,300	166.19
今回修正予想 (B)	41,500	3,500	3,500	1,850	133.68
増減額 (B-A)	△4,500	△900	△900	△450	—
増減率 (%)	△9.8%	△20.5%	△20.5%	△19.6%	—
(ご参考) 前期実績(平成 20 年 3 月期)	45,058	4,102	4,181	2,224	160.74

3. 修正の理由

〈当第2四半期累計期間連結業績予想数値の修正〉

当上半期の国内経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した原油高、円高等に加え、第2四半期には米国の金融危機に伴う世界同時株安等の影響により景気は急速に低迷してまいりました。

このような景気動向を受け、上半期の後半には、顧客のIT投資が相次いで先送り、規模縮小、凍結等となり、当社グループを取り巻く経営環境は急速に厳しさが増してまいりました。

このような状況の下、当社グループは、中期経営計画の初年度として、事業基盤のさらなる強化と将来の成長に向けた布石を打つため構造改革にグループ一体となって取り組むとともに、当年度の業績計画達成に向け、受注・売上の確保と利益の向上に努めてまいりました。

しかしながら、当第2四半期累計期間の連結業績予想を以下の理由により修正することにいたします。

- (1) グループの中核事業会社である株式会社SRAの業績は、売上、利益とも当第2四半期累計期間の計画、前年同期実績のいずれも下回る見込みとなりました。

事業セグメント別にみると、受注・売上高は、主力の「開発事業」において「金融系」では前年度後半からの受注活動が功を奏し、厳しい事業環境の影響を最小限に抑えることができたものの、金融以外の「産業系」では逆風の影響が大きく、計画を大きく下回る結果となりました。粗利益率は開発事業全体で前年同期実績より低下しました。

また、「運用・構築事業」の売上高は堅調に推移しましたが、「販売事業」ではパッケージ等の販売が伸び悩み、粗利益率は両セグメントとも若干低下しました。

- (2) その他のグループ会社につきましても、全体の業績は当第2四半期累計期間の計画を下回る見込みとなりました。

会社別にみると、国内のシステム開発会社の業績は厳しい状況で推移し、株式会社ソフトウエア・サイエンスにおいては、低採算プロジェクトの影響が大きく、業績は計画を大きく下回る見込みとなりました。

しかしながら、機器販売を主力事業とする株式会社AITが計画を達成し、米国の子会社の業績が堅調なこともあり、その他のグループ会社全体の売上高は前年同期実績を上回り、粗利益も前年同期実績とほぼ同じ水準を確保できる状況になりました。

〈通期連結業績予想数値の修正〉

今後のわが国経済は、米国のサブプライムローンや金融危機等、世界経済が抱える問題の解決にはまだ相当の時間を要すると思われ、国内景気は、依然として低迷を続けるものと予想されま

す。このような経済環境の下、当下半期は、全業種の顧客においてIT投資抑制の動きがさらに加速し、当社グループを取り巻く事業環境が一層厳しくなることは必至と思われま

す。そのような状況のもと、通期連結業績予想につきましても、当第2四半期累計期間の連結業績予想を修正した結果を受け、さらに下半期における事業環境の加速度的な悪化に伴う業績変動リスク等を勘案して修正いたします。

今後も強い逆風が続くものと思われま

特に産業系開発事業において強力に推進しており、当期の収益の上乗せを図るとともに、事業環境の好転に備え、安定的受注体制を確立して中期的な収益基盤の強化に取り組んでまいります。さらに、中期経営計画の重点事業分野である「製造組込ビジネス」と「製品ビジネス」の拡大を図るため、既に導入しているグループ横断的な機能組織（バーチャル組織）によってグループシナジーの最大化をめざしてまいります。

(1) 産業系開発事業の営業体制の強化・再構築を図るため、10月1日に株式会社SRAの産業系4事業部の営業部門を括ったバーチャル組織「産業営業統括本部」を設置し、次の活動に取り組んでおります。

- ①顧客基盤の開拓・拡充・強化
 - ・顧客数増大・顧客取引拡大の実践
- ②営業戦略の強化・実践
 - ・既存顧客を軸とした営業展開
 - ・「マーケティング戦略」機能の整備・構築
 - ・営業プロモーションの具体的実践
- ③営業体制の強化
 - ・適正営業布陣の推進
 - ・営業スキルレベルアップの具体化

(2) 売上原価のマネジメント強化による粗利益率向上に向けて次の施策を推進しております。

- ①社員の生産性向上
- ②ビジネスパートナーのマネジメント強化
- ③オフショア開発の推進（従来のインドオフショアに加え中国オフショアも開始）
- ④株式会社SRAの産業系4事業部の生産部門の粗利益率向上策推進

(3) 「製造組込ビジネス」および「製品ビジネス」の拡大を図るため、以下の施策を推進しております。

- ①グループとしての事業戦略を明確にして、組込事業本部が「製造組込ビジネス」の推進を強化
- ②「製品ビジネス」の戦略的展開を視野に入れ、「ソフト製品」、「ハード製品」の拡販を核とした取組みを販売事業本部が推進

なお、当期の配当につきましては、従来予想どおり1株につき40円を予定しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上